



諸本比較によって物語を相対化する : 『平家物語』 「木曾の最期」を題材とした「言語文化」の実践

勝部, 尚樹

(Citation)

月刊国語教育研究, 58(619):67-67

(Issue Date)

2023-11-10

(Resource Type)

journal article

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100488596>



諸本比較によって物語を相対化する
―『平家物語』『木曾の最期』を題材と
した「言語文化」の実践―

神戸大附属中等教育学校 勝部 尚樹

本実践では「言語文化」における読み比べの授業として『平家物語』『木曾の最期』を題材に教科書教材である覚一本（語り本系）と延慶本（読み本系）との比較を行った。授業では覚一本の読解の後に延慶本を読み、その違いを分析した。その結果、覚一本の語りの特徴がより鮮明になっていることに気づいた。また延慶本と比べると覚一本は当時の聞き手の反応が入り、より読み手の感情移入を誘う物語となっている。覚一本では物語の展開や人物描写がドラマチックになっていることや悲劇性が強調されていることにも気づいた。それにより作品を単なる「悲劇的な死の物語」として受容するに留まらず、テキストを批判的に捉えて物語が創られていることに注目することができた。

発表後には教科書教材の選定とナシヨナリズムとの関係をめぐる問題について、また発表で触れた前単元「演劇をつくる」における脚本作成と本単元との関係等について、質疑応答が行われた。今後は「論理国語」において作品の批評も実践したい。